【社会】　＜中学校　第１学年＞

１　結果のポイント

○「地理的分野」について、表を基に岐阜県の農業の特色を読み取る問題や、八方位の活用や縮尺を用いて実際の距離を求める問題の正答率は、７０％を上回っている。

●時差を活用し、地図上のある地点の時刻を求める問題、地図と地球儀を活用する問題、地形図から得られる基本的な情報や水準点等の言葉の意味の理解をみる問題、等高線を用いて高さを求める問題や実際に略地図を描く力をみる問題の正答率は、５０％を下回っている。

○「歴史的分野」について、時代を代表する道具や出土品から、奈良時代に該当するものを選択する問題の正答率は８０％を上回っている。

●各時代の主な出来事から、時代の特色をつかみ、時代の流れを考える問題や、時代の代表的な資料を関連付けて考える問題の正答率は、６０％を下回っている。

●世紀などの年表の基本的事項の理解、平安京など都となった場所の地図上の位置、複数の資料から内容を読み取り、それを使って適切に表現する問題の正答率は、６０％を下回っている。

２　結果の分析

（１）「知識・理解」の力をみる問題の例

＜問題＞　3の１　　5の３

> 3　１　上のような地形図について述べた**ア**～**エ**の文から、　正しいものを一つ選び、　その符号を書きなさい。
> **ア**　地形図上に示されたある地点から見て、別の地点がどの方位にあるかを知ることができる。　※地形図は略
> **イ**　地形図上に示された水準点を手がかりにして、実際の距離を求めることができる。
> **ウ**　地形図上に示された地図記号から、どのような農作物がつくられており、その農作物の収穫量はどのくらいかを知ることができる。
> **エ**　地形図に示された等高線から、土地の高さや傾斜、土地利用のようすを知ることができる。

＜結果＞　3の１　正答率　２３．９％（正答…**ア**）

＜分析＞

5の１「時代区分の理解」等、基本的な事項の知識・理解については、正答率が７０％を上回っている問題もあるが、正答率の平均は６０％程度であり、十分に身に付いていない問題もみられる。

3は、課題である読図の問題であるが、「八方位」の理解をみる問題の正答率は、７２．１％であり、昨年度の正答率（５９．７％）を上回っている。しかし、3の１「地図から得られる基本的な情報や縮尺、水準点など」の理解をみる問題の正答率は、２３．９％である。誤答を分析すると、等高線の意味やきまりの理解が十分でないと考えられる。今後も、等高線や縮尺、地図記号についての理解が深まるよう、地図や地形図を用いた作業学習などにおいて、実際にこれらを活用する学習を繰り返し行うことが必要である。

> 5　３　カードＡについて、りえさんは次のようにまとめました。文中の［　①　］、［　②　］にあてはまることばや数字の組み合わせとして正しいものを次の**ア**～**エ**から一つ選び、その符号を書きなさい。
> カードＡは、飛鳥時代についてまとめたものです。聖徳太子は、６０７年に小野妹子を［　①　］に派遣して、進んだ制度や文化を取り入れようとしました。この６０７年は［　②　］世紀にあたります。［　①　］が滅んだ後に中国を統一した国にも派遣が行われ、９世紀まで続きました。
> **ア**　①隋　②６　　**イ**　①隋　②７　　**ウ**　①唐　②６　　**エ**　①唐　②７

＜結果＞　5の３　正答率　４５．８％　（正答…**イ**）

＜分析＞

5の３「年表を読み取る基本事項である世紀」の理解をみる問題の正答率は、４５．８％であり、十分に理解されていない。（平成１５年に、国立教育政策研究所が実施した類似問題の正答率は、２８．１％であったことから、国の正答率と比べると理解されている。）誤答を分析すると、**ア**、**イ**が同じように選択されている。このことから、「聖徳太子が、隋から文化などを取り入れようとしたこと」は理解できているが、「６０７年は、７世紀であること」が理解できていないと考えられる。学習指導要領の「年代の表し方や時代区分について基本的な理解を得させるようにすること」を踏まえ、歴史学習を学ぶ最初の段階において、西暦や世紀、日本の元号などを積極的に活用して指導することが必要である。例えば「そのことがらは何世紀のことか」を問うなどの指導を繰り返し行い、様々な方法で年代を示すことができるようにする指導を行うことが必要である。

（２）「資料活用・表現」の力をみる問題の例

〈問題〉　2の１　　2の２　　4

2　あい子さんは、岐阜県の農業の特色を調べ、中部地方に属する９県の農業にかかわる表１を作成しました。

１　あい子さんが、この表から読み取ったア～エの考えの中から最も適切なものを一つ選び、その符号を書きなさい。

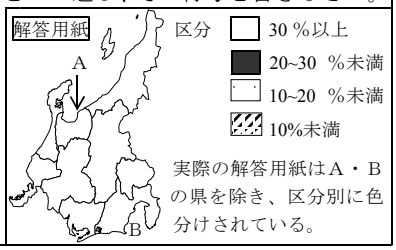
ア　岐阜県の農業生産額は、９県の中で３番目に多い。

イ　農業生産額に占める野菜の割合は、岐阜県より新潟県のほうが多い。

ウ　岐阜県の耕地面積は、長野県の３分の１である。

エ　岐阜県の耕地の４分の３以上が水田に利用されている。

２　解答用紙の略地図中のＡ、Ｂの２県について、表１の農業生産額に占める野菜の割合を示す数値を基に、区分にしたがって、略地図に模様を書き入れなさい。　（※表１は略）



＜結果＞　2の１　正答率　７０．３％（正答…**エ**）　　2の２　正答率　６３．５％（正答…略）

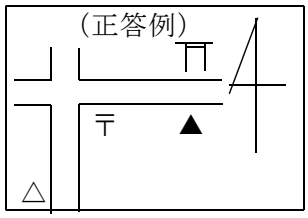
＜分析＞

2の１は、「岐阜県の農業について、表を基に中部地方に属する他県との比較を行い、その特色を読み取る」問題である。昨年度の類似問題と比べると、正答率は１０％程度上がっており、基本的な資料を読み取る力は高まってきていると考えられる。

2の２は、「統計資料を読み取り、区分に従って正しく示す」という、実際に資料を作成する技能をみる問題である。正答率は、６３．５％であるが、誤答を分析すると、その大半が「区分に従って正しい色分けができていない」ものであった。また、富山県と静岡県の区分を逆に色分けしている誤答もみられ、都道府県の位置が確実に理解できていないと考えられる。無解答も、７．５％あり、地図やグラフにまとめるなど、実際に資料を作成することや、都道府県の位置や名称を地図を活用して確認することなどを繰り返し指導する必要がある。

4　みゆきさんとあつ子さんは、みゆきさんの家で勉強をすることにしました。みゆきさんは、あつ子さんに略地図を作って自分の家の位置を説明をしようとしています。下のみゆきさんの説明を読んで解答用紙の略地図を完成させなさい。

みゆきさんの説明：あつ子さんの家(△)の東側の道路を北へ行きます。すると、右側に郵便局(〒)が見えてきます。その次の交差点を東に進みます。すると、左側に神社(⛩)が見えてきます。私(みゆき)の家(▲)は、道を挟んで神社の南側にあります。



＜結果＞　4　正答率　４８．７％

＜分析＞

4は、「与えられた情報を手がかりとして、実際に略地図に書き表すことができるか」をみる問題であるが、正答率は、昨年度より８％程度上昇した。誤答では、郵便局の位置が交差点の西に書かれたり、神社が道の南に書かれたりするなど、方位についての理解や諸事象を空間的な広がりとのかかわりでとらえることは、引き続き課題である。今後も調査活動後に、その結果を略地図を使って説明するなど、生徒自身が地図を活用して表現するような指導を充実させる必要がある。

（３）「思考・判断」の力をみる問題の例

＜問題＞　7

7　よし子さんは、室町時代に行われた日明貿易について調べ、資料Ａ：勘合、資料Ｂ：倭寇の２枚の資料を見つけました。（資料Ａ・Ｂは略）

資料Ａ：勘合は、一枚の札が真ん中で切られており、書いてある文字が二つに分かれている「勘合という合い札の証明書」です。
資料Ｂ：倭寇は、その当時の中国沿岸での「明軍と倭寇の戦いの様子」がえがかれた資料です。

よし子さんは、この２つの資料から、当時の日明貿易がどのように行われていたのかを学級で説明しました。あなたが、よし子さんならば、どのように説明しますか。「勘合」「倭寇」の二つの言葉を用いて説明しなさい。

＜結果＞　7　正答率　５４．２％（正答…略）

＜分析＞

7は、「日明貿易の様子について、二つの資料から問題点と解決策を読み取り、二つの資料をかかわらせながら適切に説明する力」をみる問題である。正答率は、昨年度の類似問題より２０％程度上昇し、無解答の割合も、６％程度減少している。資料から必要な情報を読み取り、それを活用して課題について考え、表現する力が身に付いてきていると考えられる。誤答としては、「勘合」「倭寇」の意味、それらのかかわりが理解できていなかったり、二つの言葉を適切に活用して表現することができていなかったりするものが多く見られた。今後は、「勘合」「倭寇」を言葉としてとらえさせるのではなく、「なぜ勘合札が使われたのか」など、勘合札が使われた目的を東アジア

世界とのかかわりから考えることができるような学習の充実が必要である。また、課題に対して、調べ、考えたことをまとめ、自分の言葉で表現する力を育てるために、授業において「書く時間」を十分に確保するよう努めるとともに、「テーマに基づいて書くこと」や「キーワードを用いて書くこと」など、生徒の書く力が高まるような様々な指導の工夫が必要である。

３　分析を踏まえた指導の改善

（１）指導計画の工夫改善

自校の領域別・観点別学習状況を踏まえ、以下の点を参考にして、各学校の年間指導計画の見直しを図る必要がある。

・地理・歴史・公民の分野相互の関連を図り、第１～３学年までを見通して系統的に指導し、社会科らしい学び方が身に付き、ものの見方や考え方が広まったり、深まったりする学習となるよう努める。また、小学校及び中学校学習指導要領の目標と内容を十分踏まえる。

・「地理的分野」、「歴史的分野」とも、各分野の指導内容や指導時間に偏りが生じることがないようにする。特に、歴史の大きな流れや各時代の特色をあらわす文化、日本及び都道府県の概要や位置などの理解が深まるようにする。その際、教科書に掲載された資料や年表、地図帳などを積極的に活用する。

・「地理的分野」では、位置や分布を地図を用いてとらえることができるよう、地図や地球儀を活用する指導を一層充実させる。また、生徒が、実際に地図をかくような学習を繰り返し行うなど、学んだ内容を活用する時間を位置付ける。また、地域を選択する学習では、その事例についての知識・理解にとどまらせることなく、「その他の地域の特色や変化する地域の特色を自分でつかむ力」を身に付けることができるようにする。そのために、学んだことを生かして他の事例について考える時間を位置付けるようにするなどの工夫をする。

・「歴史的分野」では、歴史の大きな流れを把握できるよう、指導計画、単位時間の授業の改善を図る。歴史学習の導入においては、年表の読み取り方などの指導を丁寧に行うとともに、積極的に地図を活用し、歴史上の出来事の位置を地図を用いて自分で確認することを習慣付ける。また、各時代の学習、事例を選択する学習において、適切な授業時数を配当する。

（２）指導方法の工夫改善

「知識・理解」の確かな定着を図り、「技能・表現」、「思考・判断」の力を十分に身に付けさせていくために、以下の点に留意する。

・問題解決的な学習の充実を図り、社会的事象に対する生徒の興味・関心を高め、自ら課題を見付け、自ら調べ考え、課題を解決する力を育てる。例えば、「①問題を発見する　②追究の方法を検討する　③調べ考察し、判断する　④過程や結果を多様な方法で表現する」といった学習過程を具体的に示して指導し、問題解決的な学習の流れを確実に身に付けることができるようにする。

・積極的に多様な資料を活用するとともに、資料活用の技能を系統的に指導する。特に複数の資料を関連付けたり、資料を深く読み取ったりすることができるよう、意図的・計画的に指導し、読解力を高める。また、白地図作業やグラフの作成など、生徒自身が資料を作成するような時間を位置付ける。

・表現する力を付けるために、根拠となる資料をはっきりさせて考えをまとめたり、キーワードを用いてまとめたりするなどの指導を継続して行う。その際、書く時間やまとめる時間を十分に確保し、生徒が「自分が書いたまとめ」等を通して学習の成果を味わうことができるよう努める。

・「地理的分野」では、学習したことを実生活などで活用することを目指す指導を行う。例えば、ガイドブックの作成や統計資料の作成など、身に付けた知識を活用できる学習を行うようにする。

・「歴史的分野」では、常に年表を用いて学習し、歴史上の出来事の確認だけでなく、様々な時代区分で表したり、自分で年表を作成してまとめたりするなど、多様な活用に努める。

（３）学習環境の工夫、学習集団の育成

・資料の読み取りのポイント等を具体的に掲示するなど、生徒が主体的に学べる環境整備を進める。

・学び合う場面において、資料のどの事実を基に考えたのか根拠に着目したり、仲間の考えと似ているところや違うところを比べたりして、「聞く」ことを生徒の実態や発達段階に即して指導する。

・安心して学べる学習集団の育成のため、話し合いの視点を明確にし、どの生徒も自分の考えを確かにもって話し合いに参加できることを大切にする。また、お互いを認め合いながら、よりよい見方・考え方を求めていく喜びを味わえるようにする。